

武蔵国分寺跡資料館だより

Musashi Kokubunji Temple Remains Museum Newsletter

編集・発行・印刷

見る／学ぶ／訪ねる

武蔵国分寺跡資料館

Musashi Kokubunji Temple Remains Museum

【住所】〒185-0023 東京都国分寺市西元町1-13-10
【電話】042-323-4103 【FAX】042-300-0091
【E-mail】museum@city.kokubunji.tokyo.jp
【HPアドレス】
<http://www.city.kokubunji.tokyo.jp/shisetsu/kouen/1005196/1004239.html>

2016.6
第26号



史跡武蔵国分寺跡と万葉花まつり～史跡武蔵国分寺跡の活用～

今年は史跡武蔵国分寺跡で石田茂作らによって初の発掘調査が行われてから60周年にあたります。以来、今日まで行われてきた発掘調査により、様々なことが明らかにされてきました。一方で、調査と並行して史跡の整備も進められ、史跡見学を目的とした人々が数多く訪れています。

また、史跡公園を会場とした様々なイベントも行われています。4月10日に行われた第33回万葉花まつりもその一つです。万葉花まつりは「歴史・自然・人との出会い」をテーマに市民によって開催される催しであり、武蔵国分寺の周辺と史跡武蔵国分寺跡を会場として活用しています。

当日は満開の桜と好天に恵まれ多くの方が足を運びました。金堂跡では市民団体による様々な出し物が披露され、史跡公園内には数多くのブースが並びました。ふるさと文化財課の出張展示ブースでは瓦の拓本体験教室とボランティアの方々による史跡ミニガイドが行われました。また昭和31年(1956)の発掘調査での鍬入れ式や調査風景の写真パネルが展示されました。

武蔵国分寺跡資料館にも万葉花まつりに参加した方々が訪れ、学芸員に史跡や出土品に関する質問を熱心にしていました。武蔵国分寺跡資料館では今年度の夏季展示として武蔵国分寺跡から出土した瓦を題材にした企画展を行い、発掘調査60周年を記念した展示なども計画中です。



国分寺・楼門前



史跡武蔵国分寺跡に咲く大島桜



展示したパネル
(金堂跡調査・昭和31年9月2日の鍬入れ式)



ふるさと文化財課ブース

旧本多家住宅長屋門の発掘調査

おたかの道湧水園内歴史的建造物「旧本多家住宅長屋門」(市重要有形文化財)は、現在、平成29年9月竣工の予定で保存修理工事を進めています。既存の長屋門は、本多家所蔵文書「弘化5(1848)年 御長屋仕様御注文」をもとに建てられましたが、建物解体工事に伴う建築学的な調査によって、今日までに至る170年近くの歴史的過程で、生活の変化に応じた修繕を建物各所に施した形跡のあることが判明しました。その後、平成28年3月には長屋門の地下部分を対象として発掘調査を行いましたので、ここではその概要をご紹介します。

調査は、まず建物の柱や土台を載せた礎石の観察から始めました。礎石の殆どは砂岩の玉石を用いていますが、門扉と通路部正面柱の4箇所には安山岩の切石を据え、さらに通路部背面柱の頁岩の2石は、古代武蔵国分寺跡の礎石を転用した可能性が考えられます。外観上目立つ箇所には、礎石の仕様を意図的に使い分けていた状況が窺えます。また、四畳半間の中央には灰を集積した囲炉裏の痕跡や、その北西側の土間部分には焼土が確認され、建物の周辺部および土間上からは、主に幕末期(19世紀後半)以降の陶磁器類・棧瓦・ガラス・建具・草履・銭貨等の様々な生活用具が出土しました。

さて、この長屋門を建築するに際しては、敷地全体に黄褐色ローム土を約10～15cm敷いて整地した後、通路西側の物置部分外周と、通路東側の式台・板ノ間・六畳二間・押入・床を含む範囲の外周には幅60cm×深さ40cm程の溝をそれぞれ巡らせ、溝の中はロームと礫を互層に版築した「布掘地業」を施しています。一方、親柱2石の礎石下部は、単独で円形の穴を掘って同様に版築する「壺掘地業」を行い、礎石はそれらの地業の上に据えられ、極めて堅牢な基礎普請をしている様子も判りました。また、通路部分の直下からは、南北に長軸を持つ長形状の土坑が左右に2基ずつ重複し、合計4基確認されましたが、いずれも焼土や炭化材、スサ入りの白色粘土等を伴っていました。

ロームの整地層を取り除くと黒褐色土が現れます。この黒褐色土の上面では掘り込みを伴う固いロームの集積範囲が18箇所と、焼土・粘土の集中範囲が5箇所確認されました。このローム集積範囲も版築を施しており、この上に礎石を据えた「壺掘地業」の痕跡と思われる



前身建物の壺掘地業(東側建物) 北から撮影



弘化5年創建長屋門の基礎普請状況と通路下の土坑群 西から撮影

が、礎石自体は遺存していませんでした。また、配列から2間×2間(南北4.6m×東西3.6m)の西側建物と、約4.4mの距離を隔てて2間×3間(南北4.6m×東西5.6m)の東側建物の2棟に分かれています。南北の面構えが揃うため本来は1棟の建物で、中央に通路を持つ長屋門形式の建物として復原出来そうです。現存長屋門と比べると、主軸はやや南に振れていますがほぼ同規模で、しかも重なるように同じ位置で発見されたこととなります。焼土・粘土の集中範囲は建物中央東寄り付近に分布し、当該面からは18世紀後半～19世紀前半の陶磁器・銭貨等が出土していることから、この建物は弘化5年以前に建っていた前身建物と考えられます。

長屋門の復原工事は現地表面から50cmまでの掘削深度を予定しているため、面的な発掘調査は前身建物の確認をもって終了しましたが、既存の埋設排水管撤去に伴い部分的にトレンチを設けたところ、さらに古い時期に遡る建物跡や遺物は発見されず、元町用水が付近を流していた痕跡を示す酸化鉄集積層が前身建物確認範囲より約1m下で確認されました。

本多家は、所蔵する古文書から享保期(1710年代)以降に国分寺村の名主を勤めていた家柄で、また長屋門自体も江戸時代中頃に名主クラスの農民には建てるのが許された門形式と言われており、今回の調査で前身建物も長屋門であった可能性を掴めたことは、近世国分寺村の様相を探るうえで極めて重要な成果を得ることとなりました。また、近在でこのような長屋門を発掘調査した事例は、豊島区の旧田島平良家(明治41年築)や神奈川県藤沢市の旧福原家(天保3年頃築)くらいで調査自体も貴重な機会といえますが^(注)、古い時期の長屋門の痕跡が発見されたのは今回が初めてです。平成30年度には復原された長屋門が展示施設としてリニューアルしますが、そこでは一連の保存修理工事で判明した様々な成果をご紹介します予定です。

(依田 亮一)

(注) 田島家・福原家長屋門の発掘調査は、以下の文献による。
福岡直子他 2007 「旧田島平良家長屋門総合調査」『豊島区立郷土博物館調査報告書』第19集 豊島区郷土博物館
大野 敏他 2010 『藤沢市指定重要文化財 旧福原家長屋門移築保存修理工事報告書』藤沢市教育委員会

合同企画展実施報告



武蔵国分寺跡資料館では平成 28 年 1 月 16 日(土)から 3 月 13 日(日)の期間に国分寺市・坂戸市第一回合同企画展「東山道武蔵路を探る～路でつながる古代の国分寺と坂戸～」を開催しました。この企画展は坂戸市と国分寺市の両方で行われ、全体での来場者数は 1,719 名となり、武蔵国分寺跡資料館での開催期間中は 994 名の方が来館されました。

今回の企画展では古代の官道である東山道武蔵路を主題として、両市で発掘された出土資料を展示しました。古代の道という企画展のテーマに関して、アンケートでは 87% の方におもしろいという回答をいただきました。また展示内容に関して 84% の方にわかりやすいという回答をいただいております、今回の合同企画展は盛況のうちに幕を閉じました。

INFORMATION

史跡の駅 おたカフェの営業時間延長のお知らせ

平成 28 年 4 月 1 日より史跡の駅 おたカフェの開館時間を右記の期間中に限り午後 7 時まで延長させていただくことになりました。なお、延長期間中もおたかの道湧水園と武蔵国分寺跡資料館の開館時間は今まで通り午前 9 時～午後 5 時(入館は午後 4 時 45 分まで)となります。

【午後 7 時までの期間】

4 月～6 月の土曜日、日曜日、祝日

7 月、8 月の火曜日～日曜日、祝日

9 月～10 月の土曜日、日曜日、祝日

※11 月～3 月の開館時間は火曜日～日曜日の午前 9 時～午後 5 時となります。

※休館日は月曜日(祝日・振替休日の場合はその翌日)となります。

トキのはく製を交換しました

平成 28 年 3 月 28 日に佐渡市から児玉勝巳教育長が来訪し、武蔵国分寺跡資料館で展示していたトキのはく製と新しいはく製の交換式が行われました。武蔵国分寺跡資料館では新しいトキのはく製を平成 28 年 4 月 29 日(祝)から公開しています。このはく製は 2011 年に石川県能美市のいしかわ動物園で生まれたメスの個体で、美しいトキ色の羽をしています。来館の際にはぜひご覧ください。

【展示場所】武蔵国分寺跡資料館 展示室 2



市重要天然記念物名称変更のお知らせ

この度、国分寺市文化財保護審議会から答申を受けて、国分寺市重要天然記念物(植物)である「こやまき」と「このてかしわ」の名称をそれぞれ「国分寺のコウヤマキ」と「祥応寺のコノテガシワ」に変更する事が決定されました。「国分寺のコウヤマキ」は国分寺本堂の裏山に生育している樹高約 17m の常緑喬木であり、樹齢は 300 年を超えると考えられています。

「祥応寺のコノテガシワ」は祥応寺境内の樹高約 12m の常緑針葉樹であり、享保年間(1716～1736)の本多新田の開発に伴い引寺された現在の祥応寺に移植されたといわれています。



「祥応寺のコノテガシワ」



「国分寺のコウヤマキ」

来館者数

2009 年 10 月 18 日～2016 年 3 月末日

来館者数累計 95,825 名

多くのご来館ありがとうございました

月	来館者数	開館日数	【2月～3月の学校見学】 <市外>和光高校(35名)
2	499	24	
3	779	27	
計	1,278	51	

○来館者数は、おたかの道湧水園の入園者数

平成27年度の史跡整備工事

現在、市では史跡武蔵国分寺跡を歴史公園として活用するための第一期整備工事を行っています。平成27年度はその一環として僧寺金堂跡・講堂跡南東側の工事を行いました。

今回の整備では、鐘楼跡から金堂跡付近までの42mにわたる石積を高さ50cmまで切り下げ、生い茂っていた樹木を伐採して新たに低木を植えました。石積を低くしたことによって、金堂跡周辺が開放的な空間になりました。平成28年度は中門跡・鐘楼跡の整備を実施する予定です。



整備工事実施後 南東から



整備工事着手前 北から



整備工事着手前 南から

武蔵国分寺跡資料館ご利用案内



交通のご案内

【電車】◎JR国分寺駅下車／徒歩約20分 ◎JR西国分寺駅下車／徒歩約15分

【バス】◎国分寺市循環バス『ぶんバス』日吉町ルート「泉町一丁目」下車／徒歩約8分
◎国分寺駅南口より『京王バス』系統番号〈寺83〉・〈寺85〉乗車「泉町一丁目」下車／徒歩約8分

※駐車場はありません

■開館時間

午前9時～午後5時（入館は午後4時45分まで）

■休館日

毎週月曜日（祝日・振替休日の場合はその翌日）
年末年始（12月29日から1月3日まで）
※展示替えなどで臨時休館することがあります。

■入園料

資料館に入館するには「おたかの道湧水園」への入園料が必要になります。（入園券は史跡の駅で販売）
一般……………100円（年間パスポート1,000円）
中学生以下……………無料

【入園料の減免規則があります】

- 学校の教育活動で生徒（中学生を除く）、学生及び引率の教職員が入園するとき〔事前（5日前まで）に減免申請書の提出が必要です。〕
 - 身体障害者及びその介護者が入園するとき〔発券窓口の史跡の駅で身体障害者手帳等の提示が必要です。〕
 - その他教育長が特別の理由があると認めるとき〔事前（5日前まで）に減免申請書の提出が必要です。〕
- ※減免申請書は、国分寺市のホームページからダウンロードできます。



ホームページQRコード